

安心して暮らせるまち。 誰もが使いやすい 交通ネットワーク形成プロジェクト

まちづくり企画部 交通政策課

令和7年8月28日

目 次



1. 本市が目指す地域公共交通の姿
2. 目標達成に向けた具体的な取組み
3. 計画目標の達成状況とその理由の考察
4. 今後の取組み方針、P D C A サイクル



- ・恵那市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・恵那市の人口は46,102人（令和6年12月1日現在）

(計画期間：令和元年～8年度)

多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

目標 1 公共交通を「支える」「活用する」 地域住民の活動促進

目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成

目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備





2. 目標達成に向けた具体的な取組み

目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

【高校生の公共交通利用者増に向けた施策】

★明知鉄道通学支援NEW・・・R6.4からどの区間でも

定期券代が一か月5,000円に、通学定期購入者**前年比123%**

★明知鉄道支援及びバス通学周知チラシを高校生に配布

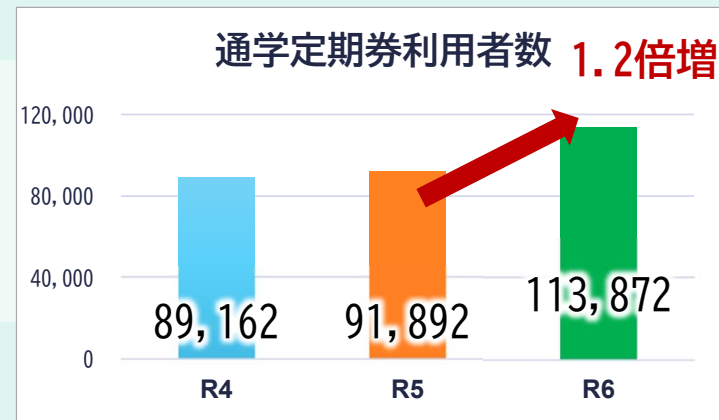
【モビリティマネジメントの推進】

★**バスの乗り方教室**を実施

○路線再編地区等 **11回**（明智・上矢作地区）

○イベントなど **5回**（まちなか市、健幸フェスタ、明鉄90周年イベントなど）

★えーなワンコインパスポートの周知及び発行
（R7.3月末登録者154名：75歳以上111名/免許返納43名）





2. 目標達成に向けた具体的な取組み

目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

【バス路線の見直し】

〔再編内容：移動可視化データの活用〕

★明智地域 ※地域はフィーダー路線

- <定時定路> R6. 10月 運行系統を再編
- <デマンド> R6. 10月 4地区から2地区に変更
毎日利用できるよう再編

★上矢作地域 ※地域はフィーダー路線

- <定時定路> R6. 3月 運行系統を再編
- <デマンド> R6. 3月 より利用しやすい運行内容に再編
旧：目的地→地域 地域→目的地
新：地域⇄目的地 と双方向の移動が可能
- R7. 3月 地区により隔日運行→毎日運行に再編

★まちなか巡回バス

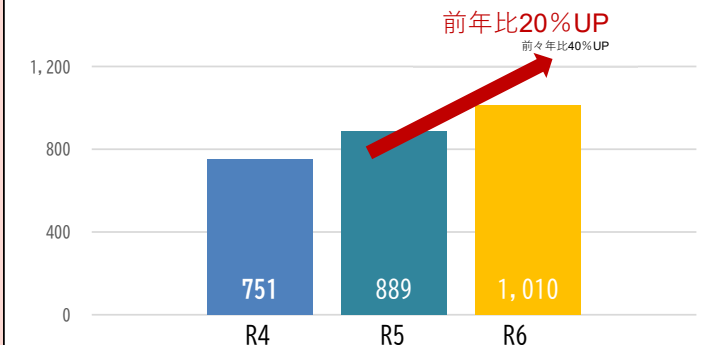
バス停の位置を今より便利で利用しやすい場所に移設するよう **地元と協議**

R6. 3月バス停移設 → 野畑1バス停利用者数 **前年比6.2倍**（月平4.9→30.5人）（11月末現在）

地域と協議を重ね再編



まちなか巡回バス月平均利用者数





2. 目標達成に向けた具体的な取組み

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

【人とWEBによる「交通コンシェルジュ」の設置】

★R4年10月 「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する

公共交通総合案内所を開設

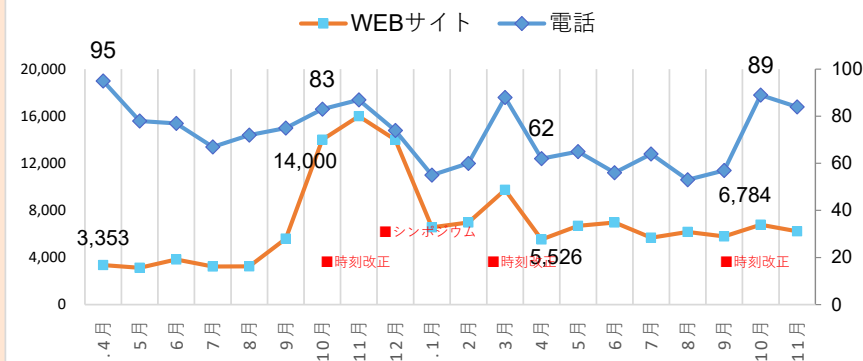
★R7.3月 交通コンシェルジュ **LINE** リッチメニューをより利用しやすいデザインにリニューアル



デジタル定期券



コンシェルジュ利用数



【運賃のキャッシュレス化】

★自主運行バスのデジタル回数券・定期券
PayPayの運用を追加



3. 計画目標の達成状況とその理由の考察

地域公共交通計画における目標

アウトプット指標		H29実績		R5実績	R6実績		R8目標値	R6/目標
目標1 公共交通を「支える」 「活用する」地域住民 の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6	→	7 (R4実績)	9 (R5実績)	→	11	81%
	ボランティア運転手養成講座の参加 者数/年	0	→	37 (R4実績)	9 (R5実績)	→	37	24%
目標2 持続可能な地域公共交 通ネットワークの形成	公共交通などで、沿線4 高校に通え る中学校数	7	→	8	8	→	9	89%
	自主運行バス利用者 満足度/%	94.6	→	97.0	95.0	→	97.0	97%
目標3 域外から来た人や高齢 者が抵抗なく自然に移 動できる環境の整備	観光による公共交通利用者数 (観光列車、日帰り旅コース) (4月～翌年3月締)	16,222	→	12,840 (R4実績)	11,395 (R5実績)	→	16,000	71%
	グリーン会員証の発売枚数 (4月～翌年3月締)	963	→	733 (R4実績)	693 (R5実績)	→	900	77%
アウトカム指標		H29実績		R5実績	R6実績		R8目標値	R6/目標
1. 基幹路線（明知鉄道）の年間利用者数 (4月～翌年3月締)		380,889	→	272,087	307,857	→	367,000	84%
2. 広域幹線・幹線・市街地循環線の 年間利用者数（前年10月～9月締）		220,117	→	104,661 (R5実績)	133,319 (R6実績)	→	114,469	116%
3. 地域路線の年間利用者数 (前年10月～9月締)		117,732 (達成度97%)	→	78,967 (R5実績)	59,296 (R6実績)	→	57,515	103%



3. 主な成果・KPI達成状況

No.	KPI	単位	事業開始前		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
①	まちなか循環線の年間利用者数	人	7,200	目標値	8,700	10,200	11,700		
				実績値	9,165	10,754	11,725		
				達成率	43.7%	79.0%	100.0%		
②	明知鉄道・バスの年間利用者数	人	503,713	目標値	540,370	577,027	613,684		
				実績値	483,079	489,129	570,018		
				達成率	0.0%	0.0%	60.3%		
③	自主運行バス利用者の満足度	%	91.00	目標値	92.00	93.00	94.00		
				実績値	95.00	97.00	95.00		
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%		
④	人身事故発生件数	件	72	目標値	66	60	54		
				実績値	65	56	60		
				達成率	38.9%	88.9%	66.7%		

4. 今後の取組み方針



目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

(モビリティ・マネジメントの強化)

- ・ 乗り方教室（地域・学校・イベント）の継続開催
- ・ 高校生向けの公共交通利用促進PR活動
- ・ えーなワンコインパスポートの周知強化及び拡充（市内商店と連携）



目標2：持続可能な地域公共交通ネットワークの形成

(移動可視化)

- ・ 移動可視化データの分析に基づく、一体的な交通ネットワークの再編（鉄道・バス・シェアサイクル）
- ・ 共通乗車券の検討



目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

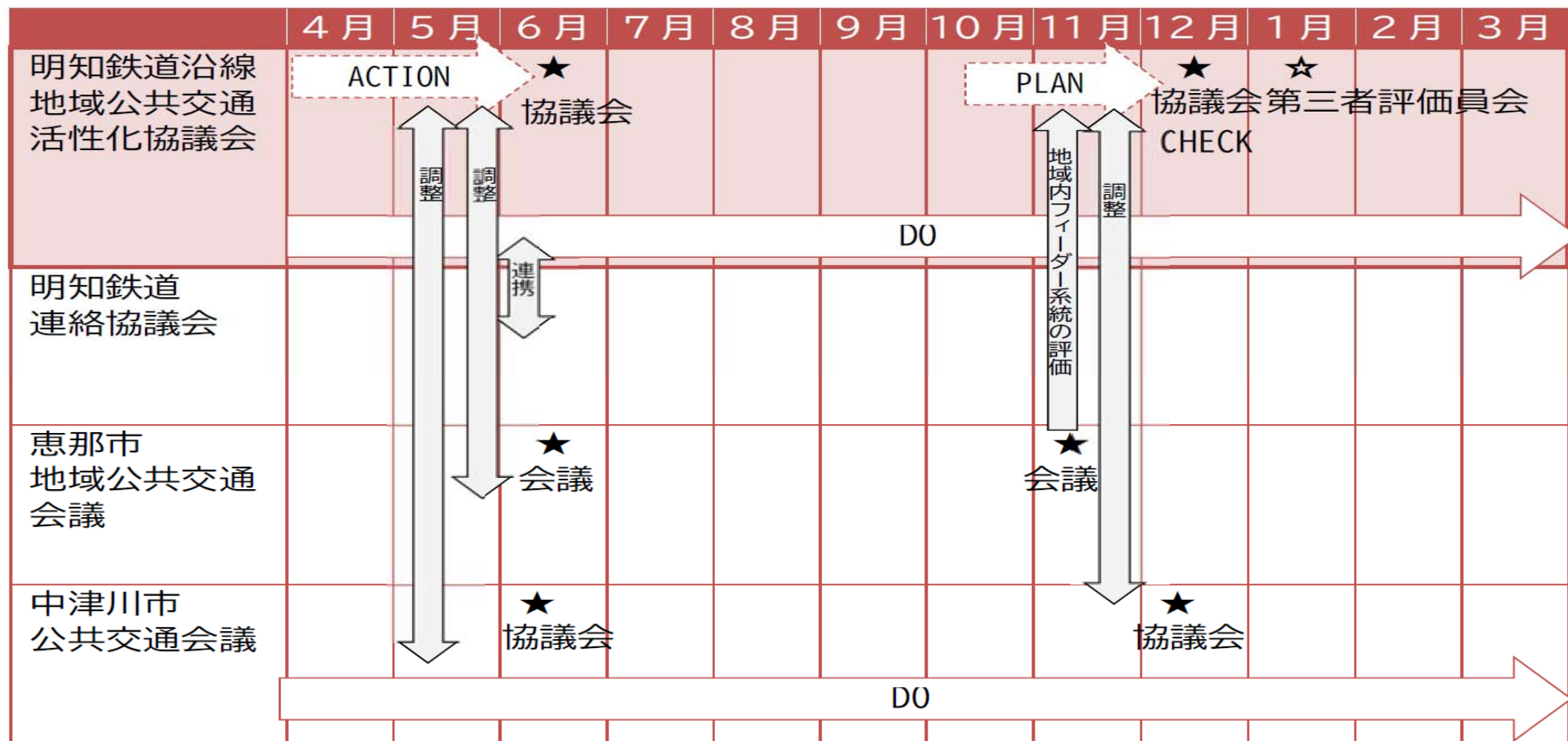
(当地域に適したMaaSの実現)

- ・ 恵那市交通コンシェルジュの周知強化
- ・ キャッシュレスの利用促進・・・デジタル回数券・定期券・PayPay
- ・ 各施設と連携した利用促進（スタンプラリー、クーポン）





4. PDCAサイクル



恵那未来キャンパス構想の実現

まちづくり企画部 SDG s 推進室

令和 7 年 8 月 28 日

目 次



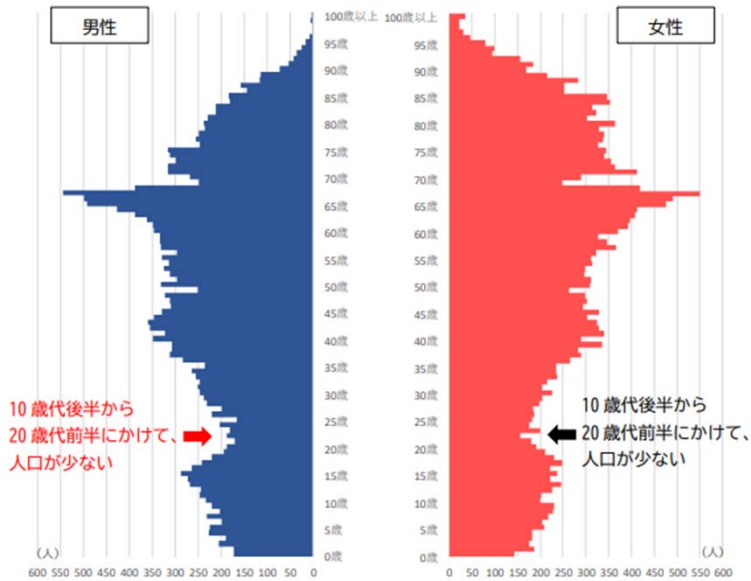
1. 事業の背景
2. 事業の概要
3. 令和 6 年度取り組み
4. 主な成果・KPI達成状況
5. 今後の取り組み

1. 事業の背景



【課題】若い世代の流出

図表 恵那市の人口ピラミッド



資料：平成 27 年国勢調査 男女別・年齢別人口（外国人含む）

図表 「今後の居住意向」の属性別集計

設問概要	項目	全体	性別			年齢別			
			男性	女性	答えない	～29	30～49	50～69	70～
問 2	N	1,576	774	772	18	135	370	605	328
今後の居住意向 [単数回答]	住み続けたい	67.8%	69.1%	67.4%	33.3%	40.0%	61.4%	71.2%	81.1%
	市内へ引っ越したい	5.0%	5.2%	4.8%	11.1%	4.4%	7.8%	4.6%	2.7%
	市外へ引っ越したい	9.0%	8.0%	10.0%	16.7%	21.5%	8.6%	8.6%	5.5%
	わからない	16.6%	16.3%	16.5%	38.9%	32.6%	21.4%	14.5%	8.5%
	無回答	1.6%	1.4%	1.4%	0.0%	1.5%	0.8%	1.0%	2.1%

資料：恵那市市民意識調査結果報告書（令和 3 年度）

若い世代ほど「恵那市に住み続けたい」と考えている割合が低い

現状：

市内には大学がなく高校卒業のタイミングで市外に転出後、恵那市に戻ってくる若者が少ない。



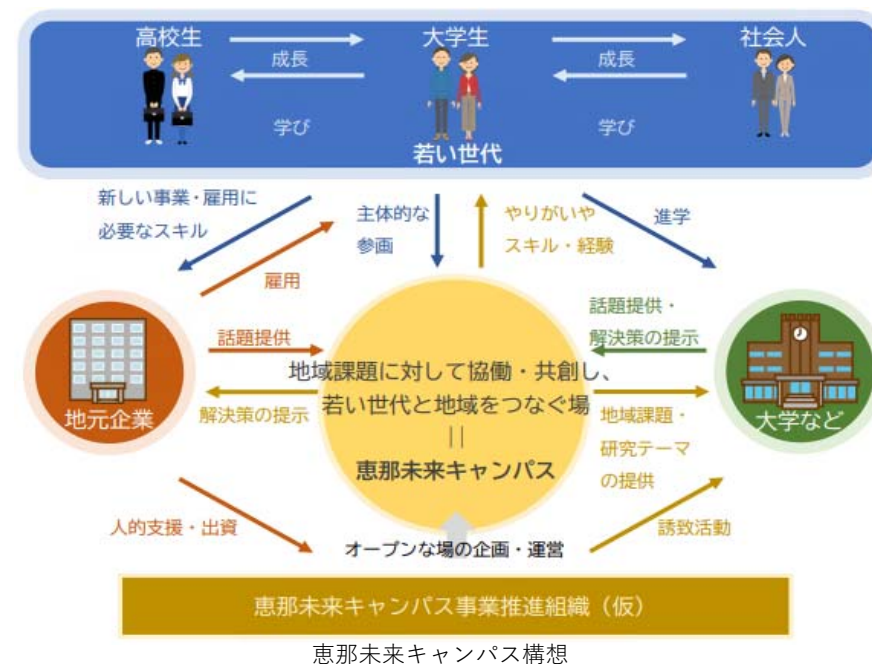
課題：

若い世代の人口流出による地域社会の活力の低下や地場産業の人手不足

2. 事業の概要



- 多様な学びの場を新しく創出し、恵那市の将来を担う人材育成を目的に、令和4年3月に『**恵那未来キャンパス構想**』を策定
- 当市の課題である若い世代の人口流出の解決に向け、若い世代と地域をつなぎ、やりがいやスキル・経験が得られる「**新たな学びの場（恵那未来キャンパス）**」を整備
- 地元企業や高校、大学などと協働・共創より専門的で具体的な地域課題の解決につなげるとともに、地域との結びつきを深め、将来を担う人材を育成し、若い世代の定着につなげる



フリータイムの様子



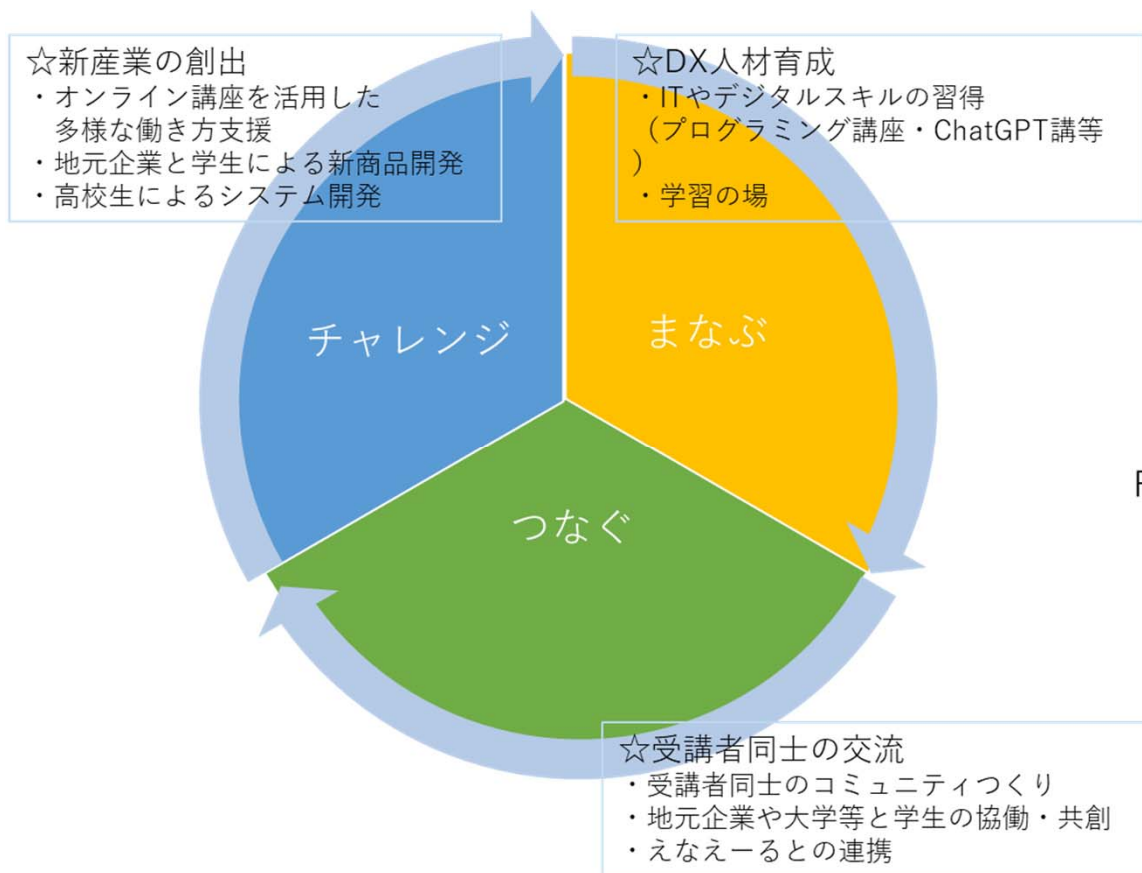
ChatGPT講座



3. 令和6年度の取り組み

1. 「新しい学びの場（恵那未来キャンパス）」学習拠点の管理・運営

当市の課題である若い世代の人口流出の解決に向け、若い世代と地域をつなぎ、やりがいやスキル・経験が得られる「新たな学びの場（恵那未来キャンパス）」の運営



R 6 年度利用者数	延べ3,542名
------------	----------

R 5 年度利用者数 延べ2,322人
(R5.7.24～)

イベント数	22 講座
-------	-------

イベント参加者数	延べ179名
----------	--------

R 5 年度主催イベント数 15講座

R 5 年度主催イベント参加者数 延べ163名（紙アプリ除く）
(R5.7.24～)



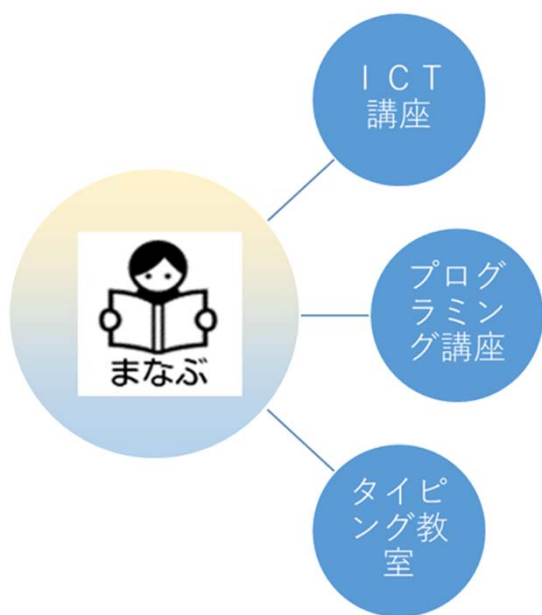
**利用者数・開催イベント数・参加者数
全て前年度と比べて増加**



3. 令和6年度の取り組み

【まなぶ】

ICTスキルの向上や地元に必要なとされる人材の育成に資する講座として、中学生・高校生を対象としたゲームを開発するプログラミング講座を開催。また、現代のトレンドである生成AI講座も引き続き行ったほか、業務改善につながるOA講座も開催した。



プログラミング講座



OA講座



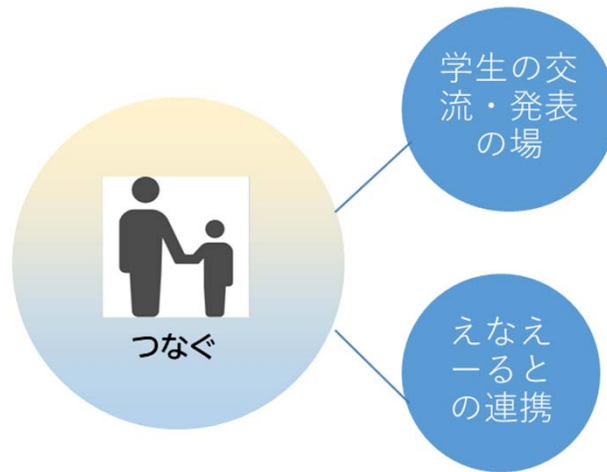
タイピングコンテスト



3. 令和6年度の取り組み

【つなぐ】

市との包括的連携協定に基づき、学校法人角川ドワンゴ学園が運営するN高等学校・S高等学校、N中等部の生徒が本市を訪れ、市営住宅のリノベーション案の企画や栗を使った新商品開発を行った。地元の工務店や菓子屋、地元住民の方々と交流をしながら未来キャンパスを拠点にプロジェクトを行った。



一般社団法人日本財団ドワンゴ学園準備会・学校法人角川ドワンゴ学園・市包括連携協定式



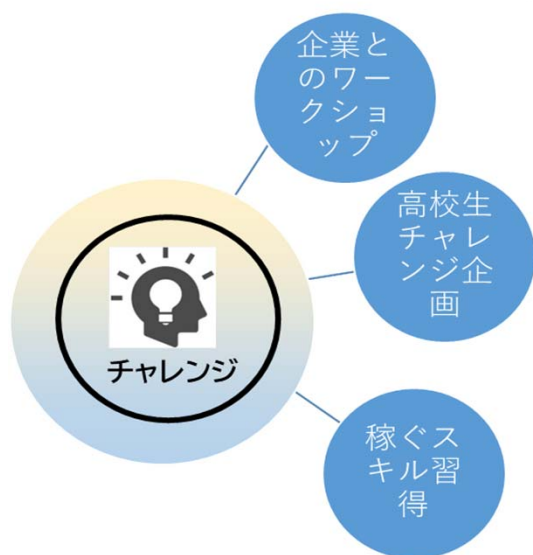
自分に合った働き方セミナー



3. 令和6年度の取り組み

【チャレンジ】

多様な働き方ができるスキルを習得する講座や、高校生のチャレンジ企画として、地域課題を解決するシステム開発「ITチャレンジ」を昨年度に引き続き開催し、グループで公共交通機関で市内を巡りたくなる楽しいウェブアプリをノーコードツールを用いて制作した。さらに、恵那高校の生徒が協和ダンボールとともに地場産品の段ボールをつかった新商品開発を行い未来キャンパスで試作品の体験会を行った。



恵那高校新商品試作会



ITチャレンジ



Webサイト作成講座



4. 主な成果・KPI達成状況

No.	KPI	単位	事業開始前		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
①	市外転出者のうち「職業上」を理由とする者の割合	%	44.20	目標値	43.27	42.34	41.41		
				実績値	39.03	38.80			
				達成率	100.0%	100.0%			
②	20～39歳女性人口に占める20～39歳女性転出者の割合	%	-2.63	目標値	-2.37	-2.11	0.27		
				実績値	-10.39	-11.77			
				達成率	0.0%	0.0%			
③	大学生がまちづくり活動に携わった回数	回	9	目標値	11	13	15		
				実績値	0	5			
				達成率	0.0%	0.0%			
④	高校生の市内事業所への就職率	%	20.68	目標値	22.12	23.56	25.00		
				実績値	21.52	26.74			
				達成率	58.3%	100.0%			

5. 今後の取り組み



恵那未来キャンパス認知度アップ

講座の充実・継続、高校・大学との連携



大学と若い世代に選ばれる地域づくり

～令和7年度事業の予定～

【まなぶ】 当市の将来を担う人材の育成を目指す

- ・ 中学生以下対象のプログラミング講座等
→ 4月～3月
- ・ 高校生対象プログラミング講座等
→ 8月・12月
- ・ 大学生・社会人対象ICT講座等
→ 4月～3月（予定）

【つなぐ】 様々な人たちとのつながり、結びつきを深める場

- ・ 包括連携協定大学とのプロジェクト
→ 7月～3月

【チャレンジ】 多様な働き方を支援、チャレンジに挑む
新しい学びの機会

- ・ 起業や在宅ワークをしやすいスキル習得の場を
提供し多様な働き方を支援する講座
→ 4月～3月頃（予定）
- ・ 高校生の地域課題解決システム開発チャレンジの場の
提供
→ 2月～3月（予定）

恵那市たべる推進事業

農林部 農政課

令和7年8月28日

目 次



1. 事業の背景
2. 事業の概要
3. 令和 6 年度取り組み
4. 主な成果・KPI達成状況
5. 今後の取り組み



1. 事業の背景

・ 市内飲食店における市内からの調達率

※調達率の算出方法

- ・ 市内飲食店（全店）を対象にアンケートを実施（令和3年12月現在）
- ・ 52店舗からの回答に基づく

市内飲食店へのアンケート調査によると約8割の飲食店が市内産農産物をできれば使用したいと回答。

実際に市内産農産物を使用している飲食店で市内産農産物の使用状況を調査したところ全体の食材の約30%という結果。→調達率の引き上げ

・ 恵那市の農業経営体数

2,428（2010年） → 1,421（2020年） **41%減**

☆地元で食材を仕入れたい者は多くいるが供給できていない

☆農家は年々減少傾向にあり、供給する体制が失われている



2. 事業の概要

- ・ 地域の強靱な基盤となる**域内循環型経済・社会の形成**
- ・ 商品やサービスづくりにオール恵那で取り組み、
恵那市らしさを地域の魅力として磨き上げる
- ・ 観光振興から食産業振興まで幅広い波及効果を生み出し、所得向上、
雇用機会拡大など農業を含めた**食産業が持続的に発展する地方都市**を目指す



3. 令和6年度の取り組み

取組① 恵那ふうど認証制度

- ・ 恵那市の風土（市内産農畜産物や食文化など）を活用した商品やサービスを提供するとともに、SDG sに取り組む事業者を認証。
- ・ 市内産の食材や食文化にこだわった認証事業者の商品をPRするため、商品購入に応じたポイントキャンペーンを実施。
- ・ 認証事業者の商品の中から申請により
恵那らしい商品をえなブランドとして認定

《結果》

- ・ 3事業者（通算21事業者）を認証
- ・ ポイントキャンペーンの応募者数 93名120通
- ・ えなブランドとして11商品を認定





3. 令和6年度の取り組み

取組② 発酵のまちづくり推進

- ・ 醤油、味噌、酒、漬物といった本市の食文化である発酵食品を産業振興や、市民の健康意識の向上に取り入れる「発酵のまちづくり」を推進する
- ・ 発酵食品ソムリエによる市民グループを組織し、発酵食文化を市民に普及させる取組を活性化する。

《結果》

- ・ 発酵の学校 → 41人の発酵食品ソムリエを育成
- ・ 恵那市発酵食品ソムリエの会発足（会員74名）
- ・ 発酵フェス → 2,000人を集客（まちなか市と同時開催）



発酵食品ソムリエ（発酵の学校）



発酵フェス



3. 令和6年度の取り組み

取組③ 地域商社ジバスクラム恵那

- ・ 地域で生産される農畜産物の販売出口としての役割を担う
- ・ 地域商社が本市の食の拠点として、市内事業者の地元産野菜のニーズを把握し、農家での生産へとつなげる

《結果》

新たな販路として、
34,938千円を販売



ジバスクラム恵那



HOKOグランピングのメニュー



4. 主な成果・KPI達成状況

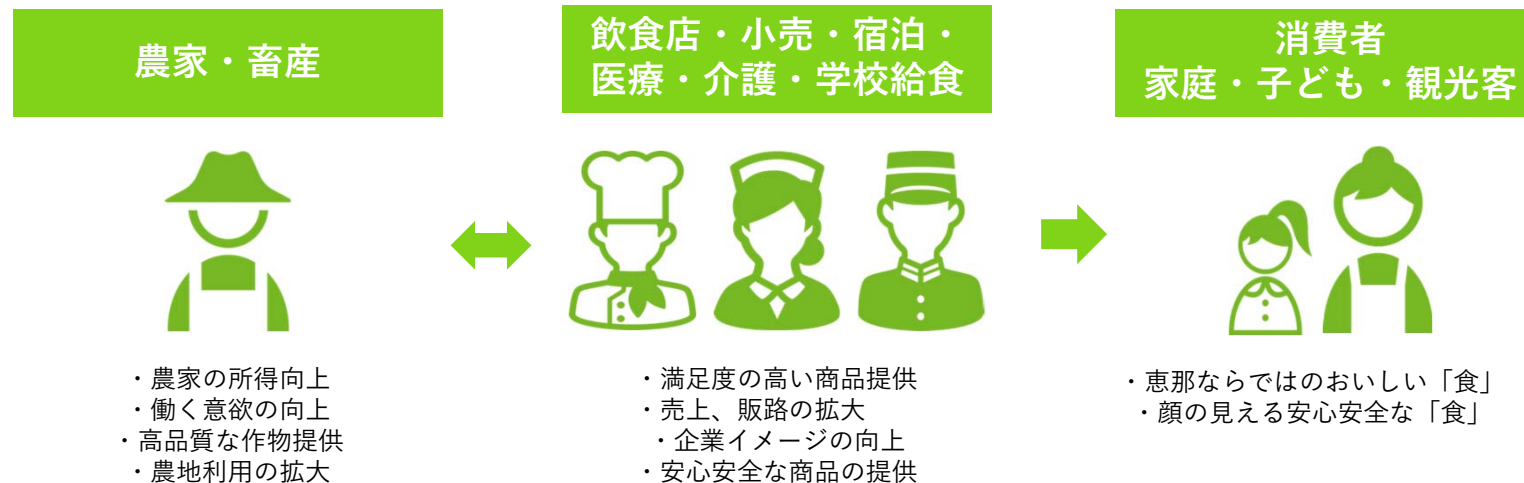
No.	KPI	単位	事業開始前		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
①	市内飲食店が使用する食材の地元産調達率	%	29.80	目標値	33.20	36.60	40.00		
				実績値	26.10	33.20			
				達成率	0.0%	50.0%			
②	恵那ふうど認証取得事業者数	事業者	0	目標値	10	20	30		
				実績値	18	21			
				達成率	60.0%	100.0%			
③	地域商社ジバスクラム恵那の売上高	千円	11,837	目標値	86,000	92,000	98,000		
				実績値	64,946	99,885			
				達成率	61.6%	100.0%			
④	認定農業者数	人 事業者	74	目標値	75	76	77		
				実績値	77	72			
				達成率	100.0%	0.0%			



5. 令和7年度以降の取り組み

“おいしい野菜”で食と農をつなぎ、 持続する農業の仕組みをつくる

夏季冷涼で中山間地域特有の昼夜の温度差のある気候を生かして
栽培された新鮮な野菜を様々な形で消費者へ届ける



食の川上から川下をつなぎ、恵那市を活性化する



5. 令和7年度以降の取り組み

- ・SDGs未来都市の認定を契機として、地域の強靱な基盤となる域内循環型経済・社会の形成を進める。商品やサービスづくりにオール恵那で取り組み、恵那市らしさを地域の魅力として磨き上げる。
- ・観光振興から食産業振興まで幅広い波及効果を生み出し、所得向上、雇用機会拡大など農業を含めた食産業が持続的に発展する地方都市を目指す。

取組1：恵那ふうど認証

- ・認証事業者の加入促進・・・通年
- ・消費者へのPRによる知名度の向上・・・通年
- ・認証事業者と市内の生産者をつなぐ取組・・・通年
- ・えなブランドとの連携による地消地産の強化・・・通年

取組2：発酵のまちづくり推進

- ・発酵の学校の開催・・・R7年7月～10月
- ・発酵新商品の開発支援・・・通年
- ・市内小中学校での味噌づくり教室開催・・・令和7年度
- ・市民による発酵ソムリエの会での市民活動の活性化・・・R7年度中

取組3：地域商社ジバスクラム恵那

- ・ECサイト、アンテナショップによる販売促進・・・通年
- ・出荷農家、取扱農産物の拡大・・・通年
- ・地域食材を使用した加工品等の開発・・・通年
- ・外部事業者との連携によるマッチングの創出・・・通年
- ・DMOの推進による観光事業の強化・・・通年

恵那市産農畜産物が使用された発酵新商品



R5年度は恵那会場で48名の発酵食品ソムリエが誕生した

